

此の組では、此の表でみると何月生れの人が多いでせう。

「五月の人が一番多いです」

今日は花子さんの誕生日なので花子さんは大喜びです。お母さんも御馳走を作つて下さいました。夕方、お父さんもお歸りになつて、みんな揃つてお祝ひの御馳走をいただきました。

「花子。おめでたう」

とお父さんが祝つて下さいました。

「花子も一郎も、とても丈夫で本當に嬉しいよ」

とお母さんも祝つて下さいました。

「花子。お祝ひに學校で今教はつてる唱歌をうたつて下さい」

といはれたので、花子さんは唱歌を歌ひました。

弟の一郎も「僕もやるよ」といつて唱歌を歌ひました。家中の人が皆にこにこしてゐました。

「さうさう、花子。田舎のお祖父さんやお祖母さんに、誰も病氣もせず、私のお誕生が來ましたと知らせてあげなさい」

といはれましたので、花子さんは田舎のお祖父さんお祖母さんに御手紙を書きました。

どんな御手紙でしたせう。

手紙の内容を想像させて發表させます。かうしたことが想像力を高め、作文に非常に役立つことは勿論であります。本課指導の目的としては、和氣に満ちた花子の一家の様子を、児童自身で描き出す所に趣旨があるのであります。一家團欒のうちに誕生日を祝つてゐる情景を想はせることが深みのある取扱の方法であります。

児童の發表のよいものを取りあげて、

田舎のお祖父さんやお祖母さんは、花子さんの手紙を屹度こんな恰好で（老人が手紙を読む恰好で）

「ふむ。誰も病氣もせずにとある。何よりちや。花子も來年は三年生になるのか。字もとても上手ちやよ、お祖母さん」

老人のやうすを現はす時は、言葉はゆつくり話します。

田舎のお祖父さんもお祖母さんも喜んで下さいましたよ。

「十六誕生日」を元氣よく読んで下さい。〇〇さん。

児童一二に讀ませます。

お母さんはにこにこしながら、なんとおつしやいました。

「花子や一郎が丈夫に育つて本當に嬉しいとおつしやいました」
お母さんの嬉しかったのはなんでせう。

「花子や一郎が丈夫なことです」

「丈夫だからうれしい」と板書します。

花子さんの嬉しかったのは？

「お誕生日のお祝ひです」

お母さんの嬉しかったのは、

「花子や一郎が丈夫なことです」

さうですね。いくらお誕生日が来ても、花子さんが病氣だったらお祝ひが出来たでせうか。

「出来ません」

家中揃って皆丈夫だから今日のお祝ひも出来たのですね。

ですから、お母さんはお誕生日の御祝ひも嬉しかったけれど、それよりもつとつと嬉しいことは

……花子や一郎がとて丈夫で病氣一つしないことです。

お父さんやお母さんは何が一番嬉しいのでせう。

「私達が病氣をせず、丈夫なことを一番よろこびます」

この兒童の發表で本課指導の目標に近づいたわけであります。

「私達が丈夫なことを一番よろこびます」に一應落ちつけて、續いて次の弟の病氣のところまで此の親心を一

層強く感じさせます。

花子さんは、何時か弟の一郎が病氣になつた時のことを思ひ出しました。

去年の冬のはじめでしたよ。さうさう、一年生のヨイコドモで教はつたのを知つてゐますか。

「知つてゐます」

あの時のことを花子さんは思ひ出したのです。

弟の病氣はどんな風でしたか？

「風邪を引いてお父さんとお母さんがとても心配なさつて、夜も寝ないで看病したお話です」

「一郎は元氣がないが、風邪でも引いたのかな。……どれ」

額に手を當てて見ると熱いのです。お母さんは早速床をとつて休ませて體温を計りました。三十九

度もあります。

水枕を出したり濡れ手拭で頭を冷したり、藥を飲ませたりして手當をして下さいました。

その晩はお父さんもお母さんもどうでしたでせう。

「付きつきりで、すこしもお休みになりませんでした」

花子さんはおさらへをしておりましたが、何だか氣になりました。

朝早くお醫者さんが見えになつて、診察して「風邪ですが肺炎になるといけませんから」といつ

て色々注意して下さいました。

学校から歸つてみると、お母さんは弟の一郎に付きつきりで介抱してゐます。

花子は歩くのも静かに歩きました。どうしてでせう。

「病氣の弟に悪いと思つたからです」

大きな聲など出したでせうか。

「いいえ」

等により病人のある時の心得を指導いたします。

熱が下つて來てからは、どうしてあげたでせう。

「いろいろ面白いお話をして、なぐさめてあげました」

そんなことを花子さんは、ふと思ひ出したのです。

本當にあの時はお父さんお母さんが心配なつて、夜もお休みにならずに見病して下さいました。

こんなにお父さんやお母さんは心配して下さいます。

皆さんには、一郎さんのやうなことがありましたか。

兒童の今までの病氣の時の感想を發表させます。さうして親が心配して夜もやすまなかつたことを有り難いことだと結び、そんな心配をかけまいと思はせなければなりません。

どうでせう。お父さんやお母さんを心配させて嬉しい人？

誰もありませんね。

お父さんお母さんが喜ぶのをみて、嬉しい人？

ほう、今度は皆さん揃つて手が舉りましたね。

お父さんお母さんが喜ぶ。どうすれば喜ぶのでせう。

「私達が丈夫であればよろこびます」

さうです。お父さんやお母さんは、皆さんの丈夫なのが何より嬉しいのです。

「花子や一郎が丈夫に育つて本當に嬉しい」とにこにこしながらお母さんがおつしやつたのも、丈夫だつたからです。

身體を丈夫にすればお父さんお母さんが喜ぶ。お父さんお母さんばかりではありません。先生も喜ぶます。喜ぶ人はもつともつとあります。

「お祖父さん、お祖母さん」

「叔父さん、叔母さん」

皆さんが丈夫ならばお父さんもお母さんも先生も喜ぶ。お祖父さんお祖母さんも喜ぶ。もつともつとお喜び下さいます御方に、

「天皇陛下が御座います」(姿勢を正し語調を改めて申さねばなりません)

天皇陛下は皆さんの丈夫なものを大變御喜び下さいます。

元氣な丈夫なからだで、よく勉強せよと仰せられて居ります。

さうすると、皆さんの丈夫なことを喜んで下さる御方にどんな御方がありますか。(次の答へを板書します)

「天皇陛下」

「お父さんお母さん」

「先生」

「お祖父さんお祖母さん」

かうした發問の方法によつて、身體を丈夫にすることは親を喜ばせると共に、天皇陛下も御喜び下さることに思ひを致させ、忠孝一全の境地を、説明を用ひずに兒童の心に培つて行きます。此の期の兒童に對して、どくどしい理論などを申してはなりません。こちらの所が發問の要領であり、教材内容の深め方、扱ひ方のむづかしい所です。又、授業としても熱の入るところです。ここが此の授業の説話の最高潮點です。

身體を丈夫にしませう。

これは強い語子で諭すやうに申します。

花子さんはどんなことに氣をつけたでせう。(どんなことに氣をつける)と板書します)

「毎朝早く起きて、深呼吸や、ラジオ体操をします」

「食べ物に氣をつけます」

「朝は早く起き、夜は早く休みます」

兒童の回答のいいものには、「さうです」といひながら、例へば「朝も早く夜も早く」等と板書して行きます。但しこの板書は、消極的保健の方面と、積極的鍛鍊の方面とに分類して板書するのが整理の時に好都合となります。

花子さんは學校をまだ一日も休みません。何故かといへば、今皆さんがおつしやつたことを實際にやつてゐるからです。

飲みものや食べものによく氣をつけます。

朝も早く夜も早く。寝る時にも齒を磨きます。

朝の澄んだ綺麗な空氣を胸一杯に吸ひます。皆さん一つやつてみませう。

實際に深呼吸をいたします。深呼吸は四五回位がよいので、それ以上はいけないことを注意いたします。連續して餘り多くつづけますとかへつて身體に悪く、時としては倒れることがあります。限度は四五回がよいところです。

ラジオ体操もやります。お天氣のよい日曜などは近所の友達と野原で遊びます。ですから、丈夫で元氣ですから、學校の成績もよく、先生もほめて下さいます。皆さんも花子さんにまけずに、お父さんお母さんを喜ばせませう。身體を丈夫にして喜ばせませう。さうして大きくなつてお國につくせるよい身體にしませう。それにはどうしたらよいか……一つのことを一行づつに書いて下さい。

今まで指導したことがどんな結果を生ずるか教師自身の反省材料として記入させます。又これが修身科考査の點の一資料ともなります。修身科考査の仕方については他日にゆづります。整理の時には板書事項を十分に生かして下さい。

備考

- 一、誕生日の祝ひを受けたい児童がある場合には、淋しがらせないやうに工夫すること。
- 二、十二月二十五日 大正天皇祭であることを知らせておきます。
- 三、冬休の心得の中、食物、お手傳ひについて特に徹底を期すること。

十七 天皇陛下

本文

天皇陛下ハ、宮城ニ オイデニナリマス。
 宮城ノ 松ノ ミドリハ、イツナガメテモ カハリマセン。
 天皇陛下ノ オヲサメニナル ワガ日本ハ、世界中デ 一番リツバナ國デス。
 天皇陛下ヲ イタダイテキル 日本國民ハ、ホンタウニ シアハセデス。
 私タチノソセンハ、ダイダイノ 天皇ニ チユウギヲツクシマシタ。私タチモ、
 ミンナ 天皇陛下ニ チユウギヲ ツクサナケレバナリマセン。

要旨

新年を迎へて聖壽の萬歳を壽ぎ奉ると共に、深い御惠のほどを仰がしめ、聖恩に應へ奉るの念をいよいよ強からしめる所に本教材の趣旨があります。

取扱の中心

本課を取扱ふに當つて教材のどこに重點を置いたらよいでせうか。教師用書に據れば、本課に於いて指導すべき主要事項は、

- 一、天皇陛下は我が大日本帝國をお治めになる最も尊い御方であらせられること。
- 二、私たちはみな天皇陛下の臣民であること。
- 三、天皇陛下が常に臣民を愛撫し給ひ、國運の隆昌を圖らせ給ふ御事。
- 四、新年の御儀式の御事。
- 五、新年に當り天皇陛下の御代萬歳を祈り奉るべきこと。
- 六、忠良なる臣民となつて聖恩にこたへ奉るべきこと。

以上であります。本教材の如きはこの一つ一つの條項が皆ゆるがせに出来ない項目であります。天皇陛下については二年に於てサイケイレイ、一年に於てテンチャウセツ・シンネン等のみならずこれまでの各教材を通じ折にふれて述べてあります。しかし「天皇陛下」といふ題は、初めてであります。その上に本教材が新年に當り氣分の一新した時に課せられた意義は、眞に深いものがあります。しかも一月教材としてはこの一課だけであります。季節的に見ても教材の内容から見ても、又時間的に見ても、慎重な取扱ひが大切であります。強ひて取扱ひの中心を求めますならば、新年の清新な喜びも皆 天皇陛下のお蔭であることに感じさせ、あらたな感激に聖壽の萬歳を祝し奉り

誓つて盡忠報國の念を固めさせることの徹底に心掛けることです。

取扱上の注意

- 一、天皇陛下が日本の國を統べ給ふ尊い御方であらせられることは、これまで幾度となく申し來つた所であります。ヨイコドモ上下二巻に於てテンチャウセツ・サイケイレイ・シンネン等のみならず、各教材がすべてこのことがらを根基としてをりますことは申すまでもありません。しかし眞正面に「天皇陛下」といふ題の下に兒童に拜誦せしめる文章は、本教材が最初であります。課せられた時期は希望に満ちた清新な新年であります。この清新な氣持に聖恩を感じ、聖恩に應へ奉るの念を固めさせるのが本課の目的であります。その取扱には最も慎重を期して、兒童をして國民的信念に徹せしめるやうに思ひをいたさねばなりません。
- 二、皇室教材取扱に當つては、教師としては、服裝を整へ態度言語等十分に注意して、臣子としての敬意を十分に現はさねばなりません。

さればといつて、難解な言語を用ひては兒童の理解を困難ならしめます。敬意を失はず、しかも兒童の理解し得るやうに、平易に謹話すべきであります。兒童もまたこの授業に對する態度に缺くる所のないやうに注意させねばなりません。しかし堅苦しい感じを與へないやう(ここの

所がむづかしいのです)柔かみを持たせなければなりません。

三、新聞雑誌等に奉掲された皇室に關する御寫眞は、取扱ひに注意し、不敬に亘ることのないやうにします。これには常時教室に御寫眞奉納袋を用意して置いて、それらの切抜きを入れるやうにし、適當な時に學校行事として、之を處理する方法もよいと思ひます。ただ丁寧にしなさいと云つただけでは、指導的ではありません。具體的にその結果までに至るのが指導の要點であります。

四、新年・紀元節・天長節等には大抵、内大臣又は宮内大臣の皇室に關する謹話が新聞に掲載されます。これを兒童に理解し得るやうに平易に加説される必要があります。

五、禮法としては宮城遙拜の仕方、行幸啓奉拜の禮法、宮城前通行の禮法、御所・行在所等の前を通行する時の禮法の指導も忘れてはならぬことです。

又祝祭日には兒童自ら國旗を掲揚すべきこととか、御眞影奉安殿前通行の際の禮法とかにもふれねばなりません。

時間配當

四時間。

準備

- 一、掛圖(後期用第十三・十四圖)
- 二、天皇御歴代表。
- 三、御寫眞奉納袋。
- 四、禮法要項。
- 五、ヨイコドモ上の口繪。

取扱の實際

皆さんお正月はどうでした。

「楽しかったです」

どんなことをして楽しみましたか。

「羽根つきをして遊びました」

「凧揚げをして遊びました」

「獨樂廻しをして遊びました」

等々、お正月の楽しかったことを發表させます。

皆さんの楽しいお正月はお國でも楽しいお正月です。色々のお祭祀まつりや行事もありましたよ。一月一日の拜賀式、一月三日の元始祭、五日の新年の御宴、八日の觀兵式などと仲々お忙しい行事が數々ありました。

一月一日には皆さん學校で校長先生と一緒に學校の拜賀式をいたしましたね。よいお天氣で皆さんの天皇陛下萬歳の聲が天までとどきました。さあ、御本を開きませう。

二三兒に讀ませます。

この御寫眞は。

「宮城の御寫眞です」

兒童用四十八頁の宮城は、現在の警視廳方面のお濠端、即ち櫻田門外からお濠をはさんで仰ぎ見た宮城の景であります。これは本課には何の關係もないことですが、兒童用書に見えてゐる土手の芝生は、昔徳川家康が江戸城を固めた時、即ち京都に向いたところだけは石垣にいたしません。主として半藏門から櫻田門までの間です。これは西に弓をひく……西にとりでを構へることは京都にゐます天皇様に弓を引くことになるからとて、石垣にするのをやめて、現在見るやうな芝生にしたといはれてをります。ここが芝生の土手でありますために一層の美觀です。

櫻田門外のところです。

ヨイコドモ上の口繪の寫眞は二重橋のところでしたが(ヨイコドモ上の口繪を示します)それはこの櫻田門のなかに入つて左側のところです。四十八頁の繪の中央あたりの向う側が二重橋の邊です。

お濠の水は青々と澄んで、いつ眺めても變らない松の緑の影をうつしてとても美しい眺です。

この奥に御殿があつて、そこに 天皇陛下がゐらつしやいます。

天皇陛下は日本の國をお治めになる尊い御方であらせられます。

天皇陛下は毎日、日本の國をもつともつと良い國になさうとしてゐられます。私達臣民をもつともつとしあはせに暮らせるやうにと御苦勞遊ばされてゐられます。

私達臣民といふ言葉は此の期の兒童にはむづかしいのでありますが、解説なしに其のまま使つてゐるうちに意味は自然と了解されて参ります。平易に説かねばなりません、といつて臣民を家來などと申してはいけません。大きいへばそれは國體の本義にもとることとなります。

私達は臣民であつて、絶対に家來ではありません。畏くも 陛下は私達を「おほみたから」と仰せられてをります。私達は生まれるときから、一身を陛下に捧げつくすことに私達の生命があるのです。かく信じかく實行してゐる姿が我等臣民の姿なのです。そこには權利もなければ義務もありません。理屈なしに、生まれたる者がお仕へして行くその現實が臣民であります。雇傭關係ではないのであります。征服者と被征服者との

關係でもありません。天皇様は民衆の代表者でもありません。

天皇陛下と申し上げる言葉は日本人以外には了解し得ないと同時に、臣民といふ意味も絶対に外国人には了解し得ない境地であります。

一月一日には、私達の學校では新年の拜賀式をいたしましたね。

天皇陛下の御寫眞に最敬禮をいたしましたね。さうして「君が代」を唱へました。

君が代は「天皇陛下の御代がいつまでもいつまでもお榮へ遊ばすやうに」と天皇陛下の萬歳をお祝ひする國歌です。

君が代を唱つて、それから天皇陛下の萬歳を全校揃つて唱和いたしました。私達の學校ばかりではありません。日本國中どの學校でも、同じく式をあげて天皇陛下萬歳を校長先生と一緒に、天までとどけと唱和申し上げました。

學校ばかりではありません。お家でもさうでせう。一月一日に朝早くお宮詣りをしたでせう。お宮詣りにはお父さんお母さんがどんなことをお祈りしたでせう。

「私の家ばかりを今年もしあはせにして下さい」

「私の家の子供は病氣をさせないで下さい」

「私の家の商賣が繁昌いたしますやう」

こんな欲の深いことなどお祈りいたしません。

「天皇陛下には今年も何のお障りもあらせられず、よいお正月をお迎へ下さいました。私達は元氣で一生懸命天皇陛下にお仕へさせていただきます。今年もどうぞ日本の國を御守り下さい。

天皇陛下の御代がいつまでもいつまでも續きますやう御守り下さい。天皇陛下萬歳」
かうお祈りいたしましたのです。

皆さん、お正月にはお家でも「おめでたう御座います」といつたでせう。學校に来てお友達に會つても「おめでたう」隣り近所の人にあつても「おめでたう御座います」

どこでもかしこでも「おめでたう」「おめでたう」

何が一體「おめでたい」のでせう。

「お正月だからです」

お正月だからおめでたいのですか。

「天皇陛下がお丈夫であらせられるそれをおめでたうと申すのです」

これは前の説話が十分に了解されておれば、おめでたうとの挨拶は天皇陛下の萬歳を壽ぎ奉ることであることを、兒童の側に於て發表して参ります。この答が出ましたなら本課指導の目的は半ば達成せられたものと思はれます。

教師用書の如くに、單に「年の始めのめでたさをことほぎ奉つた」とだけでは、兒童の心に與へる力は弱いものであります。何の氣なしに「おめでたう」と申してをりますその意味を、はつきり 天皇陛下萬歳の意味であると申し、それに加へて、自分達も元氣で迎へることの出來た年の始めを祝ふのである。かやうな意味で解説すればよいと思ひます。

學校で式をあげて、日本全國で 天皇陛下萬歳と、天までもとどくほどに唱和申し上げた丁度その頃、宮中では此の繪のやうな新年の拜賀式が行はれます。

正面中央に 天皇陛下、向かつて御右に 皇后陛下の御姿が拜されます。前に竝んでゐるのは總理大臣や各省の大臣、その他の方々です。皆さんの拜賀式と同じく、恭しく最敬禮をして、

天皇陛下の萬歳をお祝ひ申し上げてゐるところです。

私達臣民は、このやうに 天皇陛下を現御神あきつかみとしてあがめ奉り、日本の國の大御親おほみかみとしてお慕ひ申して居ります。

天皇陛下は私達臣民を本當にお慈しみになり、我等臣民のしあはせを御心にかけてさせられ給ふことは、富士山の高さにも比べられません。

廣い海の廣さにも比べられません。深い深い海の深さにもとても比べられません。

どのやうにまで、私達臣民のことを大御心にかけてさせられてゐられますかについて、この一月だけ

のことを申してみませう。

天皇陛下には一月一日の朝早く、まだ御日様がのぼらぬ眞暗なうちに御起き遊ばしまして、御身體を御潔めあそばされます。

それから宮中の神嘉殿と申す御宮にお出ましになつて、伊勢の皇太神宮に先づ御拜遊ばされます。

それから四方の神様を御拜みになります。それがお濟みになると、今度は別の御殿で御祭りを遊ばされます。この御祭りが終る頃、一月一日の朝がそろそろ明けはじめます。

寒い寒いお日様のあがらぬばかりか、まだ眞暗なうちから、神々様に何とお祈り下さいますか？

「私達のしあはせをお祈り下さいます」

さうです。御袖も凍るやうな曉かけて、神々様をお祭りになつて、ただただ私達臣民のためを思はれて國安かれと御祈り下さいますその有り難さ。

かうして私達臣民のために、このお祭りの後に、此の繪のやうな拜賀の式が行はせられ、臣民の御喜びを御うけ下さいます。

それから一月三日には元始祭といふお祭りがあります。このお祭りも 天皇陛下 が御親ら遊ばされます。

このお祭りは昔天照大神が、瓊瓊杵尊に「此の日本は天照大神の御子孫が天皇となるところである

ぞ。いつまでも榮えるこのよい國を治めよ」と仰せられたことの通り……この通り日本は榮えに榮えてをります。それにつけても、今後も益々榮えますやう天照大神様お守り下さいと、お祈り遊ばされます。

かうして私達臣民を御導き下さいますのに、いつも神様をお祭りして神様の御心によつて私達をしあはせにとばかり御心をかけさせ給ふのであります。

このやうな 天皇陛下を戴く私達日本國民は世界一しあはせです。世界で一番立派な國日本。世界で一番しあはせな私達。これも皆有り難い 天皇陛下を戴いてるお蔭であります。

四方拜・歳旦祭・晴御膳等の御儀、元始祭のこと等により、祭政一致の國體について知らせなければなりません。

天皇陛下の有り難いことは、只今申しました通り、どんな高い山にも廣い深い海にも比べられませんが、とても口では申されません。

私達の祖先は幾千年この方、御代々の 天皇様の臣民として、御恵みのもとに、一生懸命忠義をつくして來ました。

今、此の大東亞戦争の眞最中、かうして楽しい風揚げや、獨樂廻しや、羽根つきなどの出来るのも皆 天皇陛下のお蔭であります。只今は 天皇陛下は大層健やかにわたらせられます。そして此の

日本ばかりか大東亞の國々をも、正しい國に、仲のよい國にしやうと遊ばされ、東洋を悪いイギリスやアメリカの手から救はうとなさつてをられます。

この頃ではビルマの國も、フィリッピンも 天皇陛下を有り難いお方だと考へつくやうになつて來ました。

天皇陛下の御稜威がどこまでもどこまでも及んで、世界中が平和であるやうになさうとの大御心を奉戴して、私どもは一層よい子どもとして、よい臣民として、祖先の血をうけついで 天皇陛下に忠義をつくさなければなりません。

大東亞戦争と大御心について、正義日本の方針をはつきりと指導し、新年の覺悟を新たにいたさせます。先生が御本を讀みませう。

教師範讀して後に 「天皇陛下」といふ文字について指導します。

尙行幸のあつた地方では、適宜その時の御事を話して聞かせるがよいでせう。

備考

一、よみかた「神だな」「いびん」と關聯があります。

二、新年

十七 天皇陛下

二〇七

宮中に於ける新年の御儀式は一月一日に朝賀の儀、五日に新年宴會の儀をとり行はせ、朝賀の儀に先立つて四方拜・歳旦祭・晴御膳等の御儀があります。

朝賀の儀は拜賀の儀と參賀の儀に分かれます。拜賀は一日に五回、二日に二回、各席次によつて分け行はせられます。參賀は一月二日の午後一時より四時まで宮中、一月二日の午前九時から午後四時まで大宮御所へ參賀することに定められてあります。

新年宴會の儀は、一月五日に行はせられます。新年の諸儀は極めて大規模であつて、拜賀・參賀も二日間にあたり、また三日は大祭日で元始祭があり、四日は政始がありますので、御宴會は五日に行はせらるものと拜祭されます。宴會の儀の次第は、御宴會場に於て拜賀が行はれないことを除いては他の祝日と同じであります。

十八 キゲン節

本文

ダイーダイノ 天皇ヲ、ジンム天皇ト申シアゲマス。

天皇ハ、ヤマトノ カシ原ニ都ヲ オサダメニナツテ、ミクラキニオツキニナリマシタ。ソレカラ 二千六百年ト イフ長イ年月ガタチマシタ。

ジンム天皇ハ、ハジメ ヒウガノ 高チホノ宮ニ オイデニナリマシタ。

ソノコロ 遠イトコロニハ、長スネヒコトカ、ヤソタケルトカイフ 心ガケノヨクナイモノガキテ、カツテナ フルマヒヲ シテキマシタ。

天皇ハ、廣ク 日本ゼンタイニ、ミメグミヲ タレヨウト オボシメシテ、ヨクナイモノヲ オウチニナリマシタ。

天皇ハ、ゴジブンデ ミイクサビトヲ オツレニナツテ、イクサノ苦シミヲゴイッショニ ナサイマシタ。ミイクサビトハ、 天皇ノオンタメニ 命ヲササゲ、ミラストテ ツカヘマシタ。

アル時、金色ノ トビガ トンデ來テ、天皇ノ オ弓ノ先ニ止リ、イナヅマノ
 ヤウナ光ヲ ハナチマシタ。
 長スネヒコハ、コノ光ニ 目ガクランデシマヒマシタ。
 ソレカラ マモナク、天皇ハ ミクラキニオツキニナリマシタガ、ソノ日ガ
 チャウド 二月十一日ニアタルノデ、キゲン節ノ オイハヒガ アリマス。

要旨

紀元節の行事と結んで、紀元節の由來を教へ、また輝かしい皇國發展の跡について偲ばしめ、皇國の道義的使命にめざめさせる所に本教材の趣旨があります。

取扱の中心

本課の取扱に當つては教材のどこに重點を置いたらよいでせうか。教師用書に據れば、本課に於いて指導すべき主要事項は、

- 一、新年・紀元節・天長節・明治節は我が國の祝日であること。
- 二、神武天皇が我が國第一代の天皇であらせられる御事。
- 三、神武天皇が神勅の御旨を奉じて天業を弘めやうと遊ばされたこと。

四、御東行の御有様。

五、八咫鳥のこと。

六、金鷄のこと。

七、神武天皇の御即位。

○八、紀元節の由來。

以上であります。教材の趣旨上當然○印を付けた條項に重點を置くべきです。即ち説話の上では紀元節の由來及び神武天皇の御事蹟が中心であります。兒童用書の「天皇ハ廣ク日本ゼンタイニ、ミメグミヲタレヨウトオボシメシテ、ヨクナイモノヲオウチニナリマシタ。天皇ハゴジブンデミイクサビトヲオツレニナツテ、イクサノ苦シミヲゴイツシヨニナサイマシタ。ミイクサビトハ天皇ノオンタメニ命ヲササゲ、ミラストテツカヘマシタ」が此の文の中心で、これによつて神武天皇天業恢弘の御精神と我等の祖先の御奉公について説き、二千六百年この方、この御方針の 天皇を戴き國民も亦忠義によつて、この日本の彌榮を招來したこと、我等小國民も祖先の志を受けつぎ、榮えゆく日本の礎石となるの覺悟を固めさせる所に、この説話の中心を置くべきであります。

取扱上の注意

一、日本全體に厚き御恵みを垂れさせやうとして御東行遊ばされた神武天皇の天業恢弘と、臣民の祖先の御奉公について説くと共に、二千六百有餘年、君臣相和して日本の今日の隆盛をいたしたことに及ぶべきであります。同時に「メイジセツ」「天皇陛下」と結び國史理解の萌芽を養ひたいものであります。

二、皇室教材の取扱に當つては、常に服裝を整へ、態度言語等に十分注意し、臣子としての敬意を現はさねばなりません。さればといつて、難解な言語を用ひたのでは兒童の理解をさまたげます。敬意を失はず、しかも兒童の理解し得るやうになるべく平易に謹話すべきであります。之を聞く兒童の態度にも敬意の失はれないやうにせねばなりません。ことに皇室教材は固苦しといつた感じを與へないやうに柔らかみを持たせることが肝要です。

三、讀方に於て本教材に連絡あるものに「金しくんしやう」があります。それに内容的に應じた「金色ノトビ」の話が出てをります。これらの連絡は勿論のこと、兒童用書の口繪と聯關、うたのほんの紀元節の歌の大意を説くことも忘れてならないことです。

時間配當

三時間。

準備

- 一、掛圖(後期用第十五圖・十六圖)
- 二、金鶏勳章の繪。
- 三、天皇御歴代表。
- 四、日本地圖。

取扱の實際

二月十一日はどんな日か御存じですか。

「紀元節です」

學校ではどんなことがありますか。

「お式があります」

紀元節つて、どんな日でせう?

二三兒にどんないはれの日かについて發表させますが、これは短かい時間に終るやうにいたします。四五分位で切り上げます。

我が國では、大事な祝日が四つあります。一つは新年です。

「明治節もさうです」

「天長節もさうです」

四月二十九日は 天皇陛下の御生れ遊ばされた日でありますので、お祝ひいたします。明治節は 明治天皇様をおしのび申しあげる祝日です。

この三つの祝日に加へて、今日お話しする紀元節。この四つの祝日は我が日本では特に大切な祝日であります。皆さんはもう、明治節も天長節も新年の祝日も教はりましたから、今日はおめでたい紀元節の御話をいたしませう。

二月十一日は紀元節です。おめでたい祝日です。私達は誰でもみな紀元節のどんなに尊い日であるかを知つてゐないといけません。

此の前の時間はどなたの御話でしたか。

「天皇陛下の御話です」

有り難い天皇陛下。日本が世界で一番よい國であるのも 天皇陛下を戴いてゐるからであります。私達の祖先は御代々の 天皇様に忠義を盡して來たことについての御話でしたね。今日の御話は 天皇陛下の遠い御祖先、第一代の天皇様であらせられる 神武天皇様の御話です。

神武天皇様は大和の橿原に都をお定めになつて、第一代の天皇様として御位にお即きになつたのは

今から二千六百〇年(昭和十五年が二千六百年)の昔のことです。

二千六百何年もの永い間、神様の御血筋の 神武天皇様から 今上陛下までつづいてゐるのは、世界の中で只一つ日本の國があるばかりです。

神武天皇様より前は神代といつてをります。天の岩屋のお話、出雲の大國主命の御話、それらは皆神代の頃の御話です。

その頃は日本の都は九州の日向(今の宮崎縣)にありました。(日本地圖を指します)

神武天皇も、始めは日向の高千穂の宮においでになりましたが、ここは少し日本の西南の方に片寄つてをります(地圖を指して示します)ので、ここから遠い所に居る者の中には、神武天皇の御稜威を有り難いと思はない者もありました。

そればかりか長髓彦とか八十梟帥たかぶなどといふ者は、強いことを鼻にかけて、弱い者をいじめ、意地悪はする、それはそれは勝手な振舞ひをしてゐました。ですからその地方に住んでゐた人達は、みんな困つて、どうかしてくれる御方はないものかと、お偉い御方の御出でを待つてゐました。

それをお聞きになつた 神武天皇は、そんな悪い者がゐるのか。日本人は強いからとて威張つたり弱い者をいじめたりするやうではいけない。皆が仲よくおだやかに、助け合つて楽しく暮して行く國だ。さうしてだんだんとよい國になり、ますます榮え行く國である。それもこれも御先祖の天照

大神の仰せにかなふやうにすることだ。

天照大神のお示しを廣く日本全體に知らせて、榮えるよい國にせねば……とお考へになりました。

ここで日本人の理想を話の中に織り込んでおきます。こんななんでもないやうなことに日本人の理想信念を語る事が大切なのであります。それも對話の中に入れることがより効果的であります。

そこで 神武天皇は御兄様と御相談なさいました。さうしてご一緒に「みいくさびと」をお率ゐになつて、大和の國の方に向つてお進みになりました。

「みいくさびと」といふのは？

「今の兵隊さんです」

さうです。その頃は兵隊さんのことを「みいくさびと」と申したのです。その頃のことですから、道ありません。峻しい山々を幾日もかかつて越したこともあります。大海で大嵐にあつて、やつと舟を陸に着けたこともありました。けれども 神武天皇様は、その苦しいつらいことも我慢なさいました。

天照大神の大御心を日本國中の隅々にまでも示すのだ。この位の苦しみは苦しみではない。弱い困つた者を助けて、よい日本にするのにこの位のつらさは……我慢だ我慢だ……とみいくさびとを御率ゐになつてお進みになつたのです。

みいくさびとも有り難い 神武天皇様の御思召に添ふやう命を捧げて従ひました。

或時のことでした。天皇が大和の國へおはいりになられやうとして山道にかかりますと、わつと一度に攻め寄せて來た者があります。長髓彦の一族です。道を塞いで勢よく手向ふので、仲々打ち破ることが出来ません。そればかりか大變な苦戦で 天皇様の御兄様に賊の矢が當つてとうとう途中でおかくれになつてしまつたのです。

天皇様は大層残念に思召して、

「これは屹度、お日様に向つて矢を射るのがいけないのだらう。自分は日の神の子孫であるのに、お日様に手向かつてゐることになる。お日様を背に戴いて戦つたらきつと勝つことが出来る」と仰せられました。

天皇は日の神と仰がれる天照大神の御血筋の御方であらせられますから、かう仰せられたのです。みいくさびともみんな揃つて、

「まことに。まことに。その通りで御座います。お日様を背中に戴いて戦ふことにいたしませう」と申しました。

そこで路を變へて、南の方から(地圖を指します)この邊からお進みになりました。

ところがこの邊りは、それはそれは峻しい山ばかり。やつと一つの山を越したと思ふと、前よりも

高い山がまたひよつこり。人の通れるやうな路もありません。

一日のうちにくらも進めない時もありました。或時のこと、すつかり道もわからず、天皇様はじめみいくさびとも「困つたぞ。困つたぞ。どつちへ行つたらよいだらう」

「困つたぞ。困つたぞ」(腹をこまねいて頭をかたむけ、困つた時の動作をします)

その時でした。頭の上の方で、

「カア。カア」といふ鳴き聲、

「ああ鳥だ。八咫鳥だ」

みると八咫鳥は、山の麓の方を横に飛んだかと思ふと、また戻つて来ては「カア。カア」そして又同じやうに飛んで行きます。

「陛下。道案内の八咫鳥かとも存じますが」

「うむ。天照大神様の大御心のお示しに違ひない。者共あの鳥について進め。天照大神様のお示しだと思ふぞ」

戻つて来ては飛んで行き、戻つて来ては飛んで行く八咫鳥は、みいくさびとの先頭に立つて飛んで行きます。峻しい山も高い山も、道のない所も、すすん進めるのです。

とうとう、めざす大和の平野が見え出した時の 天皇様はじめ、みいくさびとの喜びはどうだつた

でせう。

むづかしい言葉に天祐神助といふ言葉があります。こんどの大東亞戦争でも、どうしてこんな少ない味方で数十倍の敵を破ることが出来たか。どうして勝てたのか。そのわけがわからないことが数へ切れない程あるのです。それは皆天照大神様はじめ神々様の御助けであるとしか考へられないのです。之を天祐神助と申します。

神武天皇様が和へお進みになつたこの時も、丁度それと同じです。

天祐神助。たしかに天照大神様のお助けだつたのです。

いよいよ長髓彦の兵隊とお戦ひになりましたが、なかなか強いので、すぐには打破れさうもありません。長い激しい戦ひが續きました。その時西の方から小さな黒い雲が、ちよつびり。

「おや……おや」と思ふ間もなく、それが見る見る中に廣がつて、急に真暗闇のやうに曇つて来ました。

ばらばらと小指程のものが降つて来ました。

「あつ。電だ。電だ」

小指程もある電が矢のやうです。當ると痛いのです。真暗闇のやうな中を、スーッ。スーッと白い筋を引いては後から後からと降つて来たかと思ふと、どこからともなく一羽の金色の鵞が飛んで來

て 神武天皇様の御弓に止まり、いなびかりのやうに「ピカリ」と激しく照り輝きました。手向かつてゐた賊どもは、真暗闇の中からひかりと光つたこの光りに、忽ち眼がくらんで何も見えません。

「まぶしい。まぶしい。眼があげられない」

もう戦ひどころの騒ぎではありません。とうとう流石の長髓彦も降参して仕舞ひました。

こここのことは讀方で教はりましたね。みんなであの歌を誦んでみませう。

で讀方で取扱つた所を誦じます。

御本の一番前の繪を見て下さい。

金色の鴉ですね。眼のくらんだ賊があはてて逃げていますね。

神武天皇様がいくさの真先にお立ちになつて、ぐつと賊共をお睨みになつてゐる御姿は、本當にお勇ましい神々しい御姿ですね。

其の他、口繪について兒童の感想を發表させます。

神武天皇様はこのやうになさつて心掛のよくない者をみんな御従へになりました。戦ひにお強いばかりでなく、天皇様は大變おやさしく御情深い御方であらせられたので、大和の地方はすつかりおだやかになり、天皇様の御稜威は益々四方に輝きわたり、臣民の喜びは大變でした。

それから間もなく、大和の橿原を都にお定めになり、ここに宮殿を營んで、始めて嚴かな式をなさつて、天皇様の御位にお即きになりました。

かうして天照大神様の御子孫の、神武天皇様が第一代の天皇様とられました。それから今日まで神の御末の、天皇陛下が、天照大神の仰せのままに續いてゐられ、ますます國の光は輝いてをります。

二月十一日は今から二千六百何年もの前に於て、神武天皇様が橿原で、天皇様の御位にお即きになつたおめでたい日でありますので、この日には日本國中、日の丸の旗を立ててお祝ひを致します。

神武天皇様が御位にお即きになつてから、二千六百何年もの長い年月がたちました。その間に於て御代々の、天皇様が次々と御位をお嗣ぎになられました。どの、天皇様も、神武天皇様のやうに御勇ましくまた御やさしい御情深い、天皇様であられました。それに又、神武天皇様にお仕へしたみいくさびとが、天皇の御ために命を捧げ、身を捨ててお仕へした通り、私達の祖先も皆、身を捧げて、その時その時の、天皇様にお仕へして参りましたから、日本の國はますます、明るいよい、おだやかな國となつて、世界に輝いて來ました。

世界中で日本の國のやうな、國はどこにもありません。

天皇陛下は私達臣民を子として御情をかけて下さいますし、私達臣民は、天皇陛下をお父さんとし

てお仕へ申し上げ、國中が一つのお家のやうに仲よく、心を一つにして榮えてゐる日本。

この國に生れ、この國に育つた私達の幸福は、世界中の誰もが羨やましがつてゐます。

二月十一日は日本の國の基がきまつた尊いめでたい日です。

皆さん、私達が日本に生まれたことをどう思ひますか。

「うれしく思ひます」

本當にこんな幸福な私達。

私達は、祖先の人達に比べて、忠義することについてまけてはいけませんね。

天皇陛下が神の御末としてお續きになつてゐられるやうに、私達には亦、祖先の忠義の心が、ズー

ト私達に續いてをります。誰も彼も皆、血の中に忠義の心が流れてをります。

日本はこれから先々、益々光りを輝かして行きます。有り難い 天皇陛下を戴き、臣民が忠義な心

で一生懸命に 天皇陛下にお仕へするのですから、日本の光りが増さぬ筈がありません。

さあ、このおめでたい紀元節の日には、どんなことに氣を付けたらよいでせうか。

「僕達が朝早く日の丸の旗を掲げます」

さう。日の丸を皆さんの手で揚げませう。その他には、

「式を立派にいたします」

式を立派にします。さうですね。どんなことに氣を付ければ式が立派に出来ませうね？

ここで兒童の発表により式についての注意をします。式場の禮法の指導に就てもただ形式にとらはれず、心からの式についての禮法の實踐指導をいたします。

式の亂れる場合は、入場後仲々式が始まらない場合、校長の訓話が難解で長すぎる場合もありますが、一般に勅語奉讀のあとの式歌奉唱の前後でありますから、そこには特に注意しなければなりません。

式歌奉唱練習の折には、

式の歌はどんな意味だか、それについてお話しませう。

で式歌の意味を極く簡単に申します。くどくどと詳解してはなりません。その式歌の根本をつかんで、そのお祝のよろこびをこめて歌ふやう指導いたします。

尙、兒童用書五十頁・五十一頁の繪の取扱ひは整理の時に説かれる方がよいかも知れません。

十九 日本ノ國

本文

明カルイタノシイ 春ガ來マシタ。
 日本ハ、春 夏 秋 冬ノナガメノ 美シイ國デス。
 山ヤ川ヲ海ノ キレイナ國デス。
 コノヨイ國ニ、私タチハ、生マレマシタ。
 オトウサンモ、オカアサンモ、コノ國ニ オ生マレニナリマシタ。
 オヂイサンモ、オバアサンモ、コノ國ニ オ生マレニナリマシタ。
 日本 ヨイ國、 キヨイ國。
 世界ニ 一ツノ 神ノ 國。
 日本 ヨイ國、 強イ 國。
 世界ニ カガヤク エライ國。

要旨

國體の本義について諭し、國史理解の萌芽を養はせる。「メイヂセツ」「天皇陛下」「キゲンセツ」の三課の後をうけて、特に我が國の優秀性を教へ、國家愛護の念を培ふ所に本教材の趣旨があります。

取扱の中心

本課を取扱ふに當つてどこに重點を置いたらよいでせうか。教師用書に據れば、本課に於て指導すべき主要事項は、

- 一、日本の國がすぐれた國土を有すること。
- 二、日本の國土は日本の國民とともに 天皇陛下におつかへ申し上げるものであること。
- 三、私たちの祖先がみなこの國土を大切に出来たこと。
- 四、みんな日本の國を大切にしなければならぬこと。
- 五、世界に輝く偉い國にするやうに日本を護つて行かねばならぬこと。

以上であります。かやうな國土化育の教材に於ては、この指導事項のいづれの條項も大切なものであり、一つ缺けてもその目的を達せられないものと考えられます。本課の如きは此等の條項を通じて、更に明淨にして正直な國民性を養ふ所に要旨があるのでありますから、この點を重點として

指導すべきであります。即ち海に囲まれた日本は、氣候温和であつて、四季の變化にとみ、山河の景觀も美しい國です。この恵まれた美しい國土日本に生を享けた私達國民は常に國土の恵みを感じ國土に對して深い感謝の念をもち、この國土に依りて大君に仕へまつるの念を強うせしめねばなりません。

取扱上の注意

一、教師用書の教材の趣旨に「我が國土は海洋をめぐらし、山河の織りなす景觀にすぐれ、氣候溫和で四季の變化に富み、海幸・山幸も豊かなところである。このすぐれたる國土に生を享けた我が國民は、つねに國土の恵みを感じ國土愛護の念をつよくしてゐる。我が國民が國土愛護の念につよいののは、古來農耕による安住生活を主としたことや、又島國であつた關係にもよるがその中核は、むしろ國土國民相依つて大君につかへまつるものとなす堅い信念に基づくのである。國土と國民とが同胞一體であるといふ堅い信念によつて、國土の保全を圖り、國力伸張のためにつくすことこそ實に我等の皇運扶翼の道である。

我等の祖先は肇國の大精神に則つて、我が國土を安住の地としたのであつて、五穀豊穡の沃野はそのまま祖先の勤勞のたまものであり、都市も村落もそのすべてが我等の祖先の魂を打ち込んで經營し來つた成果にはかならない。我等國民は此の尊い父祖の遺業をうけ繼いで國土愛護の念に燃え、また國土保全のためにつとめ、益々その發展を圖り以て天壤無窮の皇運を扶翼し奉らなければならぬ。云々」とあります。これを讀んでみますと、なんだか肩のはるやうな氣がいたします。何とかも少し肩のはらない表現方法がないものでせうか。

修身教授の研究發表や、研究授業の教案などを見ましても右の文章と大同小異のものが多いことは何故でせう。この教材の趣旨を、兒童用書にあてはめて讀んでみますれば、も少し、易しく書けさうに思はれるのであります。研究教授案の如き場合ではもつとくだけたものである方がよいと確信してをります。それが教育者のとるべき道であります。なんとすれば兒童への與へ方は常に具體的であると同時に、それは理論をも放れてはいけません。いはば具體化されたそのものが目的であつて、便宜的な具體化、解らせるための具體化、手段としての具體化であつてはならぬと思ふのであります。

二、本教材の取扱に當つては、美しい國日本は氣候溫暖で四季の變化にも富み、且つは美しい山河の國日本に生を享けたことに感謝の念をもたせるやうにしなければなりません。國土愛護の念の發生も國土に對する感謝より發する愛護であります。

我を生み我を育む國土に感謝して有り難いと思ふことから、國土愛護の念をつよめることにな

るのであります。前にあげた教師用書の趣旨にはその大切な感謝への言葉が述べられてないのは不足に思はれます。

三、國土愛護と海外發展とは、一見して矛盾してゐるが如き感があります點については特に注意しなければなりません。日本はよい國である。これ程住みよい國はない。これほど美しい國はないといふなら、なんで海外に行く必要がありませうか。住み心地のよい國、この國から海外に發展するのを勧めてゐるのは何故でありませうか。又我から求めて海外に發展するのは何故でせうか。海外には良い國を求めて行くのではないかといふ人もあります。一見して矛盾するが如き問題は、實のところ何の矛盾もないのであります。愛護と發展とは一致した境地であります。即ち私達にとつて國土と國とは、觀念に於て同じであります。

國といへば國民をも國土をも意味し、畏くも天皇陛下をも意味するのであります。これらの一切が國といふ言葉であらはされてをるのであります。單一なる國土のみの愛護は考へられませんが。この意味からいつて愛護と發展とは一致した境地であります。同じ意味に於て言ひ過ぎかも知れませんが、兒童には大東亞地域が我が國土であるといふやうな觀念を與へるやうにすることも、現下に於て特に強調せねばならぬものと考へるのであります。國土愛護はいはば大東亞の愛護であります。この大東亞の愛護なくして我が國土愛護はなし得ないことも併せて考

へられることでもあります。

四、兒童用書中の韻文は藝能科音楽と結んで取扱ふこと。挿繪は地形に拘泥せずに書いてありますから細部に拘束されない指導をすること。

時間配當

三時間。

準備

一、掛圖(後期用第十七・十八圖)

二、大東亞地圖。

學校の近傍を學級を率ゐて散策してその途中、枯草の中から芽を出して來た草や麥畑や梅等について語り合ひ、早春の候になつて來たことを指導して置くべきでせう。

取扱の實際

寒かつたけれど、身體を鍛えたり、寒さにまけない強い心を鍛えるにはとてもよい冬も、もうそろそろ終りです。氷の張るのも段々と薄くなつて來ました。春の始め、むづかしい言葉で早春(板書し

ます。春の始めです。梅の花がぼつぼつ咲き初めましたよ。少しづつ日も長くなつて、明るいたのしい春が近づきました。鶯の聲も聞かれますし、枯草だとばかり思つてゐた所から、もうたんぼほや蓬の美しい芽が伸びて來ました。

もう間もなく本當にぼかぼかした春が來ます。櫻の花も綺麗に咲きませうし、桃の花も紅く咲くでせう。

日本の春は明るい朗らかな和なだやかな春です。(春。明るい。朗らか。和やかと板書) 日本人が明るい朗らかな和やかな心を持つてゐるのも、この春のお蔭です。神様はよい國をお生み下さいました。

春はそんなにいいが夏はどうですか？

「夏もいいです」

「水泳が出來ます」

「魚取りも出來ます」

等、兒童は多く遊ぶことの方を申しますから、それはそのまま受け入れ、

身體を鍊えるにはいい時ですね。それに青葉の頃ですから、夏が一番すきな人もありませう。

雨の降り方も元氣ですね。西の方に小さな雲が出たかと思ふと、見てゐるうちに空一面に廣がり、やがてビカリ。ゴロゴロ、ザーと夕立です。さうして一時間位でサツと晴れ上る夏。男らしい夏

の雨です。日盛りはカンカン照りつけますが、朝晩の涼しさ。夏は私達日本人に元氣のよい男らしいさつぱりした強い心を養つてくれます。(夏。元氣のよい。さつぱりした。強い心等板書します)

秋はどうでせう？

「稻がみのります」

「栗もきのこもとれます」

「梨も柿も出來ます」

自由に秋についての感想を發表させます。これも前の春や夏と共に日本人の性格にどんなに影響してゐるかを検討します。

秋はいろいろのものがみのります。お百姓が一番働かねばならぬ時です。秋は空氣も澄んで空も清くお日様も一年中で一番綺麗な時ですね。お月見などいたしますのも、美しいお月様を見て楽しむと共に、お月様のやうな明るい正しい心になりたいと思ふからです。

ですから秋も春や夏のやうに私達日本人に、清い心、明かるい心、正直な心を養つて呉れます(秋。清い心。明かるい。正直等板書します)

冬も亦寒い冬、いやな冬と思ふたら大變ですよ。木も草も春の來るのをちつと我慢して待つてゐますね。こんなにつらいことを我慢するのを、むづかしい言葉で忍耐といひます。

冬は私達日本人に、寒さに負けるな我慢するのだといつて、強い心、我慢強さを養つてくれます。

前例にならつて「冬。負けない。我慢」等と板書します。このやうに季節はすべて私達日本人の心を養ふて呉れるものであることに氣づかせ、季節について深い感謝の念を持たせます。

春・夏・秋・冬。それは順序よくまはつて、私達の心に此のやうなよい心を養つて呉れます。

なんでもなと思ふやうな暑さ寒さが、私達をいつの間にか、正直な、明るい、我慢強い、世界の人々に御手本となるやうな日本人を育てて呉れるのです。それは神様のお生み下さつた國だからです。春・夏・秋・冬のどれもこれも、よい日本人をつくるよい先生です。有り難いですね。

それに神様のお生み下さつた日本は、山も河もとても景色が美しいです。世界中の人は、日本に來ると、この美しい日本に驚きます。

美しい景色を見てゐる私達は、美しい心、けだかい心を持つてゐます。山も河も亦私達の心を美しいもの、けだかいものに育てて下さいます。

夏や冬や、山や河やに對して、どう思ひますか。

「有り難いと思ひます」

「私達の心の恩人です」

等によつて、國土に對する感謝の念を持たせます。教師用書の取扱の要領に於ては、餘りに物質的なものば

かりで國土を説いてをります。即ち「日本の國は春夏秋冬の順調なそれぞれ美しい景色をもつ國である。又海山川のきれいな國である。北から南へ長く續いた日本の地は、國を護る上にもすぐれてゐる。産物の種類も多い。山からは木材や薪がとれる。金銀其の他の大切なものがとれる。川からは魚がとれる。田や畑には米やいろいろの農作物ができる。日本のまはりを取圍んだ廣い海からは、魚や貝や海藻や鹽がとれる。海には大きな汽船が外國へ行つたり來たりしてゐる。海ばかりではない。大空ではまた遠い國まで飛行機が飛んで行く。私達は、このよい國に生まれた」とあります。勿論、此の期の兒童には此の程度でよいものなのでせうが、何だかそれでは餘りにも物質的なやうに思はれるのであります。

物がとれるからよい國であるなら、とれなかつたらよい國ではないのであります。物がとれてもとれなくても日本に生まれた者にとつては、日本はよい國と思ふ所が大切なことであると思ふのであります。物がとれるから日本はよい國と思ひ込ませるやうであつてはならぬと思ふのです。幸ひ兒童用書の方には、物のとれることについては少しも書いてありませんから、物がとれるととれないといふ事についてはふれない方がよいと思ひます。

その上に色々な物もとれます。山からは材木、海からはお魚、田からはお米、畑からは大根や麥。こんなよい國に私達は生まれたのです。

お父さんもお母さんも、お祖父さんもお祖母さんも、その又お祖父さんもお祖母さんも、その又又

上のお祖父さんもお祖母さんも、このよい國に生れました。

ここで兒童は笑ひますから、軽く笑はせます。しかしこれ以上続けると笑ひすぎ、こんどは兒童の方で先生の眞似をするやうになります。かうなると授業が消し飛んで仕舞ひますから注意を要します。このやうに軽く笑はせることは、指導上大切なことなのであります。

さうして御代々の 天皇陛下の深い御恵みを戴いて、一生懸命に働いて 天皇陛下にお仕へしました。

田や畑がこんなによく整つてゐるのも、お祖先のお働きのお蔭です。汗を流して一生懸命に働いて下さつたから、このよい日本の國がますますよくなつたのです。

汽車も自働車もお船も、みんな祖先の人々が作つて置いて下さつたものばかりです。

このよい國を祖先の方々が力を併せて作り上げ、さうして 天皇陛下にお仕へして來ましたこのよい國日本をうけついで、もつともつとよくして行くのは誰でせう。

「僕達です」

さうだ、君達だ。君達ももつともつと日本をよくするのだ。そればかりか大東亞の、米英からいぢめられ通しに困らせられて來た人達を救つてあげるのは君達だ。君達は身體を鍛へ、心も鍛へて、日本をもつと立派なよい國にいたしませう。

「穢れのない清い國日本。神様がお始めになつた國日本は神の國です。神國日本は正しい強い正直な心で、世界をも導いて行く國です。」

その大東亞を導き世界中を導くのは 天皇陛下であらせられる。それをお助け申し上げるのが、君達のこれからの仕事だ。本當に大仕事だ。

その仕事をするのが忠義であります。

さあ一つ御本を讀みませう。

韻文は音楽の時に指導して唱はせるのがよいと思ひます。

二十 ヨイ子ドモ

本文

私たちハ、今度 ミンナソロツテ、三年生ニ ナリマス。
 私たちハ、コノ學校ヘ ハイッテカラ、ヨク ベンキヤウヲシマシタ。カラ
 ダラ チャウブニシマシタ。先生ヤ、オトウサン オカアサンノ イヒツケ
 ヲヨク守ツテ、ヨイ 子ドモニナラウト 心ガケテキマシタ。
 私たちハ、先生カライロイロナ オ話ヲ聞キマシタ。
 天皇陛下ノ アリガタイコトガ ワカリマシタ。天皇陛下ヲイタダク 日本
 ノ國ハ、世界中デ 一番タフトイ國デアルコトヲ 知リマシタ。私たちハ、
 天皇陛下ニ チユウギヲツクシ、コノヨイ國ヲ、ミンナデ イッソウヨイ國ニ
 シナケレバ ナラナイト思ヒマス。
 今日ハ、學校ノ シフゲフシキデシタ。ショウシヨヲ イタダイテ ウチヘカ
 ヘリマシタ。

オトウサン オカアサンハ、タイソウ オ喜びニナツテ、

「コレカラモ先生ノ 教ヘヲ守ツテ、イッソウヨイ子ドモニ オナリナサイ。」
 ト オツシャイマシタ。

要旨

日本人の行爲はすべて皇國の道に則るものであり、天壤無窮の皇運を扶翼し奉らんが爲のものであります。第二年生ではヨイ子ドモ全巻を通じて、特に各課を通じて、このことを意識させる方向を辿らせたのであります。勉強をすることも、身體を丈夫にすることも、教師や兩親のいひつけを守ることも、すべて國民としての本分を守る道であります。この國民としての本分、國民的信念に培ふことによつて、忠良な臣民としての覺悟を固めしめると共に、日本を更によい國にしやうと努力する心構へをはつきりと持たせ、第三學年に進級する準備たらしめるものであります。

取扱の中心

本課の取扱ふに當つて教材のどこに重點を置いたらよいでせうか。教師用書に據れば、本課に於て指導すべき主要事項は、

一、日本のよい子どもが學校でなすべきこと。

- 二、日本のよい子どもがうちでなすべきこと。
 - 三、二年生になつてから學び、さうして行つてきたこと。
 - 四、よい子どもが 天皇陛下をいただく日本の國がらについて心得べきこと。
 - 五、よい子どもは日本を世界に輝く一層よい國にするやうにつとむべきこと。
- 以上であります。本課の如きは全般的に國民的信念に培ふ教材であります。即ち勉強することも一身一家のためではなく、身體を丈夫にすることも我が一身一家のためではないことをはつきり自覺させる點に重點をおかねばなりません。従つて主要事項のどれもが同じ様な關聯をもつてをり、とりわけどれに重點を置くかを考へるべきではありません。要は國民の行動は一身一家のためのものではないことを根本とし、それについて兒童の實踐し得べき事柄を示す點に重點を置くべきであります。

取扱上の注意

- 一、日本人の一切は 天皇陛下にお仕へすることにあるので、一身一家のための私利私慾のためであつてはならないのであります。勉強も鍛錬も皆 天皇陛下にお仕へする用意であつて、それは自己の出世榮達のためであつてはならないのであります。このことはこれまでの取扱の實際

に於て具體的に詳述して來ました。

しかし此の期の兒童には理論で諭すのではなく、理屈なしに實踐を通じて説くのが、兒童心理にあつた扱ひ方であります。教師自身が指導の根本を把握して、指導に際しては觀念を與へることよりも、實踐することによつて體得させるやうに務めなければなりません。例へば孝行を教へるにしても、孝の觀念を得せしめるのが目的ではなく、孝なる行ひを實踐せしめるのが目的であります。この期の兒童の取扱ひのむづかしい點はかやうな所にあるのであります。

- 二、新學年を目の前にして希望と喜びに、兒童は浮き浮きしてをります。これを引き締める意味におきましても(と申しましても壓迫ではありません)新たな覺悟にて第三學年に進級し、更により成績をあげるやうに仕向けるべきであります。

- 三、修身科の實踐面を結んで、從來の成績物その他を集めさせ、第二學年の生活記録たらしむるやう整理することも大切であります。

尙、教室等もかはることから机・椅子などをひきつぐ時の心得、教室等も新しく入つてくる人のためにも、又自分等が、一年間親しんだ教室にお別れする意味に於て、教室の掃除も立派にし、花などを飾つておくことなど、優しい心を養成する上に大切なことでもあります。これも修身教授の實踐面です。學級全體でこのやうな作業は、言葉なくして成せる修身指

導であります。児童も先生も一體となつて教室への奉仕であり、最後を飾るといふ指導が出来る譯であります。

四、春季皇靈祭についても、修了式の禮法の指導についても、新學期までの休暇中のことについても特に注意しなければなりません。殊に新學年を迎へる爲に色々な物を購入するでせうから學用品購入の方針を明らかにして、必要なものだけを購入させるやう具體的に印刷して配るがよいでせう。

時間配當

三時間。

準備

一、掛圖(後期用第十九・二十圖)

取扱の實際

もうどの位で三年生になるのかね。

「もうあと三週間です」

もう三週するといよいよ三年生。御本も新しくなるし、お教室もかれば下駄箱もかはる。早く三年生になりたい人？

一年に入學した頃と較べてみると、身體も大きくなつたし、お勉強もお上手になりましたよ。

一年生に入學した時に植えた記念の樹も大きくなりましたね。二年の間に記念の樹も大きくなつたが、皆さんも大きくなりました。身體ばかりか心の方も大層成長しました。

私達が二年生になつてから色々なことがありました。

私達は學校では一年生の兄さんや姉さんになつた氣持で、一年生の世話をしてあげました。

學校へ來る時もさそつてあげて、一年生のお父さんやお母さんから喜ばれました。

廊下の歩き方もお上手になつたと先生からもほめられました。お勉強の姿勢もよいといはれましたし、鉛筆やお帳面の使ひ方も大變よくなりましたねとおほめにあぶかりました。私が學校で先生にほめられたことをお家でお話すると、お父さんやお母さんはどうでしたか。

「とても喜んで下さいました」

お父さんやお母さんは迎も喜んで、やつぱり二年生になると違ふなといつてほめて下さいました。お家でも一年生の時よりも二年生になつたら、よく言ひ付を守つてお家の御手傳も上手になつたといつて可愛がられます。妹も弟もよくなつきますのでよく一緒に遊びに連れて行つて面倒をみてあ

げますので、お母さんは忙しい時など「本當にお前があるので大たすかりだ」とおつしやいます。私が紙の舟を造つた時には「うまいね」とお父さんもほめましたし、お母さんも「ほう御上手だね」とほめました。お祖父さんも「お前が作つたのかい」と言つて喜んで下さいました。一學期の身體検査では、どこも悪い所がないし、一年生の時よりも三糶も伸びたといつて先生が驚いていらつしやつたことも思ひ出します。

五月五日のお節供の會で私がお話をしましたこともおぼえてゐます。

二學期はどんなことがありましたか。

「遠足がありました」

「運動會がありました」

楽しい遠足は天神山でした。電車の乗り降りにも、順番を待ちました。

車内でもおとなしくして皆さんの迷惑にならないやうにしました。お辭儀も上手になりました。お糶もよくなつたと此の間のことお母さんがおつしやいました。

嵐の日にも風の日にもまだ一度も學校を休みません。大詔奉戴日には子供隣組でいつも近所の道路や下水の掃除をするので、よい子供部隊だと皆さんからほめられました。

氏神様にもよくお詣りします。子供部隊でお庭のお掃除を日曜の朝しました。朝のすがすがしい空

氣の中で小鳥の聲を聞きながら神様のお庭を掃くのは本當に氣持がよいと思ひました。お掃除が終つて口や手を淨めてお詣りして歸りました。

秋の運動會では紅組が勝ちました。私は徒歩競走では二等でした。

三學期はどんなことがありましたか。

「學藝會がありました」

「展覽會がありました」

學藝會は三月三日の雛祭りでしたね。お父さんやお母さんが御出でになつて、見て下さいました。私はその時に唱歌の合唱に出ました。

私達はこの一年の間、ヨイコドモを習つて、よい子供となるために色々と先生からお諭しを受けました。私達が忠義や孝行になるやうに色々と教へて頂きました。

天皇陛下はどんな御方ですか。

「日本の國をお治め下さる尊い御方です」

「天照大神様からの御血筋で、お情深い御方です」

「私達を子どものやうに御可愛がり下さいます」

明治天皇様について知つてゐることは。

「天皇陛下のお祖父様にあたらせられます」

「日本をこんなに強くして下さった天皇様です」

「明治節は、明治天皇様のお偉さをお偲び申し上げます」

神武天皇様について知つてゐることは。

「第一代の天皇様で、日本の國の基をお定めになりました」

「橿原で御即位の式をおあげになつた日を紀元節としてお祝ひしてゐます」

等によつて、取扱つた皇室教材についての復習をなし、更に記憶を新たにさせてから、兒童の立場に於ける説話に入ります。兒童の回答が正しい時は、いつでも「さう」とか「さうですね」とか言つて取りあげることを忘れてはなりません。兒童にはこの先生の僅かな言葉がどんなに嬉しく、はげみになるかは想像以上であります。かやうなことが一層勉強に勵む心を振起させるもたなのであります。

私達は天皇陛下・明治天皇・神武天皇の御事を先生からお聞きして、日本の國のありがたいことが段々とよくわかつて來ました。

私達の國日本が世界中で一番尊い國であることもわかりました。それも皆 天皇陛下を戴いてをるからであります。

よい日本人になれますか。

「なれます」

よい日本人はどんなことが一番大切ですか。

「天皇陛下に忠義をつくします」

私達はよい日本人となつて 天皇陛下に忠義をつくし、今まででも立派な日本の國を、みんなが心を合はせてどうしますか。

「もつとよい國にいたします」

もつともつとよい國、立派な國にす。今のお答はよいお答でしたね。

で兒童の發表した覺悟をほめ、それによつて更に覺悟を固めさせます。

二年生になつてから、一年生の御手本になるやうにと先生からおつしやられてからは、いつもよくつとめました。今度はいよいよ三年生になるのですから、一年生や二年生のお兄さんお姉さんになるわけです。二年生の時よりも、もつとよい御手本を示して、先生のお教へをよく守り、上級生の言ふこともよくきいて立派な三年生になります。

學校ではよい三年生。お家ではよい子供であるやうに心掛けます。身體も丈夫に鍛へて學校を一日も休まないやうにします。一年生の時よりも二年生の時よりももつと勉強を、どうします。

「勉強しなければなりません」

間もなく修業式がありますよ。うれしいでせう。修業證書を戴いて歸る時のうれしさ。これも皆先生のお蔭です。先生の御恩です。これからも先生のお教をよく守つてよい子どもにならうと思ひます。お父さんお母さんはそれを喜んで下さいませ。

發問は教師の立場からいたしますし、説話はよい子ども自身としていたします。此の期の兒童はそれについて何等の矛盾も感じません。この教材はこのやうな取扱ひでなくとも、もつともつと發問をして行く方がよいかも知れません。先生の一方的な説話だけになり勝ちでは感心できません。兒童の活動振りが判り、心の動きがわかるのは發問によるのであります。それによつて、次の説話を考へて兒童の心に合はせながら教師の目的としたものに、伸ばして行くやうにいたしますれば、いづれの場合でも失敗はありません。尙、春季皇靈祭についても簡単に知らせておかねばなりません。

備考

- 一、修業式で證書發狀を受ける時は、およそ三步前で敬禮し、進んで両手で受けておし戴き、三步退いてそれを一見の後、敬禮して退く。
- 二、春季皇靈祭は、春分の日にとり行はせられる大祭である。この日 天皇陛下には皇靈殿に於て御歴代の天皇・皇族の御靈に對して御親祭あそばされる。また同日に、宮中神殿に於て春季神殿祭が行はせられる。これは報本のため神殿の天神・地祇・八百萬神を御親祭になる大祭である。兒童には春の彼岸と御先祖のお祭りについて語るべきである。

昭和十九年三月十日印刷
昭和十九年三月二十五日發行

修身教授(二學年用)

定價 三、五〇
合計 參圓七拾錢

編纂者 中和會教育調查部 代表者 毛利昌

發行者 東京都麹町區麹町五ノ七 中和會事務所 代表者 内田義夫

印刷者 東京都本郷區元町二ノ九 隆文舎印刷所 代表者 江島文一

承認番號 A430938號
承認部數 10・000部

發行所

東京都麹町區麹町五丁目七番地

中和會事務所

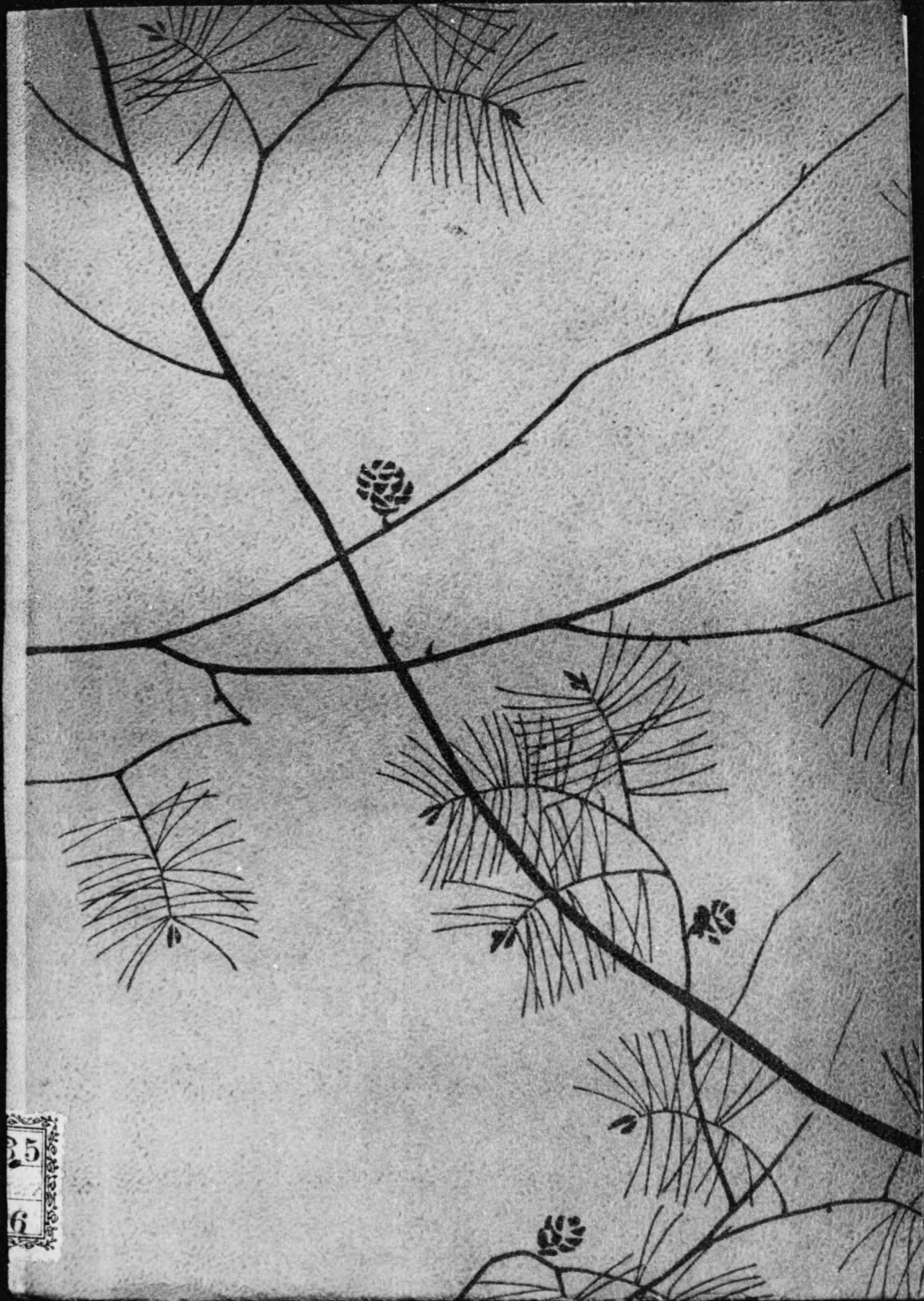
電話 九段 九五・五〇七八番
振替 東京 六三二五四番
會員番號 一一七五一三

配給元

東京都神田區淡路町二ノ九

日本出版配給株式會社





25
6